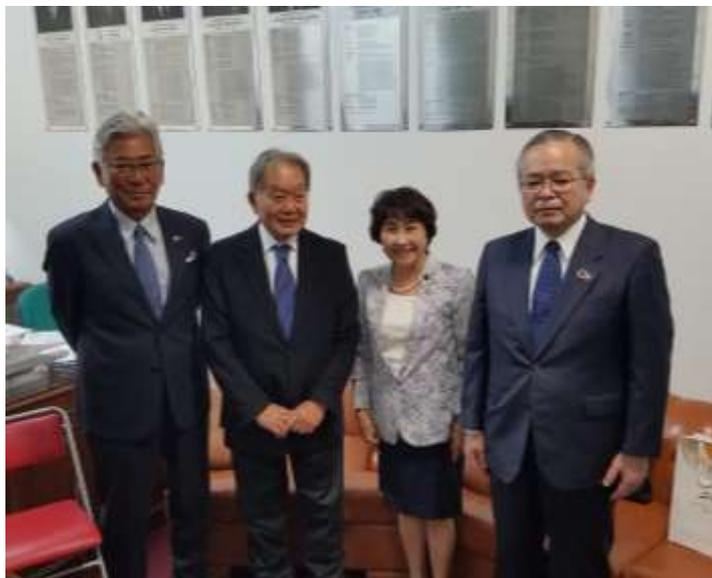


8月21日（水）

日本ブラジル文化社会福祉協会訪問

午前10時、文協本部ビル地上階にある日本ブラジル文化社会福祉協会を訪問した。同協会は、ブラジル日系社会の中心的機関として、ブラジル社会において日本文化の継承と普及を促進するなど、様々な活動を行っている。なお、昨日訪れたイビラプエラ公園内の日本館の管理運営を行っている。

また、同協会は、後ほど視察予定のブラジル日本移民史料館の管理運営を行っていることもあり、ここでは石川レナト会長と簡単な挨拶の後、記念品交換を行い、記念撮影を行った。



石川会長（左から2番目）との記念撮影

ブラジル日本都道府県人会連合会訪問

続いて、文教本部ビル5階のブラジル日本都道府県人会連合会（以下、県連）を訪問した。

県連は、ブラジルに移住した日本人の権益を擁護する団体として、また、移住者の消息調査等、全ての移住者の切実な問題に対処する目的で発足した。なお、昨日参拝した開拓戦没者慰霊碑の建立や慰霊祭は県連が行っている。

冒頭に、県連の活動内容についての紹介ビデオを鑑賞した後、山田県連会長から県連の取り組みを紹介していただき、続いて中尾副市長、有本副議長、吉川姉妹都市協会会長から挨拶の後、記念撮影を行った。

【中尾副市長挨拶要旨】

本日はありがとうございました。私は初めてブラジルを訪れたが、今まで自分の机にある地球儀を見る際には東南アジアを見ることが多く、ブラジルに思いが至っていませんでした。この地を訪れてみると、日系の方が多くおられて活動しているということを感じることができています。少しでも日系コミュニティの方の歴史を学んで帰りたいと考えています。山田会長を初め、ブラジル都道府県人会連合会のますますのご発展を祈念して挨拶とさせていただきます。

【有本副議長挨拶要旨】

昨日に引き続き、本日もこのような機会を設けていただきありがとうございます。私は今回でブラジルは2回目になり、11年前に木下吉信団長のもと、大阪市会から行政視察で訪れさせていただいた。前回も多く日本人会の皆さんにおもてなしいただいたが、今回も温かいおもてなしをいただき心から感謝申し上げる。今後も大阪市とサンパウロ市がしっかりと手を繋ぎ、経済、文化がますます発展していくよう頑張りたいと思う。



ブラジル日本移民史料館視察

午前10時30分、同じく文教本部ビル7階、ブラジル日本移民史料館を視察した。移民史料館は、移民70周年祭の記念事業として1978年に開館し、ブラジルに渡った



日本移民の記録を保存し、後世にその歴史を伝えながらブラジル社会に普及するという使命のもと、日本ブラジル文化社会福祉協会が管理運営を行っている。なお、昨年は史料館開館40

周年、移民110周年記念事業の一環として施設の改修工事が行われ、8階の公開の際には秋篠宮眞子内親王がテープカットを行った。

史料館は7階～9階部分に位置し、7階では日本人の移民の歴史やブラジルへの最初の日本移民を乗せた笠戸丸の模型と上陸当時の移民の写真、移住者の当時の生活がわかる生活様式や生活用品等の展示が行われている。

8階はさらに時代が進み、移民がコーヒーだけでなく綿やお茶など新しい栽培種を導入したこと、日系の産業組合の歴史的歩みと現在の活動が示されている。その後戦争となりブラジルと日本が敵国となったため、移民は様々な制約を受けたものの、戦後は日本移民が再開、日本企業のブラジル進出などを経て現在に至るまで、展示内容について順を追って丁寧な説明を受けた。

移民史料館の9階にて芳名録に記帳の後、記念撮影を行った。

在伯大阪なにわ会との意見交換

続いて、大阪なにわ会会館において、在伯大阪なにわ会との意見交換を行った。

在伯大阪なにわ会は、大阪府のいわゆる県人会であり、先ほど訪れた県連は本会の上部団体である。「大阪府人会」という名称にすると「大阪婦人会」と区別がつかず間違われかねないとのことから、「大阪なにわ会」という名称になったとのことである。

まず、在伯大阪なにわ会の下平尾会長から歓迎の挨拶の後、中尾副市長、有本副議長、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長から挨拶を行った。

【中尾副市長挨拶要旨】

この度は、大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年の節目に、大阪市会代表団、大阪・サンパウロ姉妹都市協会の皆さんとともに、サンパウロ市を訪れることとなった。私どもの当地訪問にあたり、下平尾会長、山本副会長をはじめ、会員の皆様には一方ならぬ御尽力を賜り、また、このような温かいおもてなしをいただき、心からお礼を申し上げます。

大阪なにわ会は、様々な文化、慈善事業を通してサンパウロにおける日本文化の普及促進に努めておられるとお聞きしている。

また、剣道教室を始められたということで、本市職員剣道部からいただいた防具を運んできた。本日、お渡ししたいと思っている。是非、今後の活動に役立てていただきたいと思う。

大阪なにわ会の今後益々の御発展と、下平尾会長、山本副会長を初め、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

【有本副議長挨拶要旨】

本日は、姉妹都市提携50周年の記念すべき年に、再びこの地を訪れることができたことを大変嬉しく思っている。再びと申しますのは、11年前に大阪市会の行政視察でこの地を訪れさせていただいた。本日も同席している木下吉信議員を団長にこちらに伺い、その時にもなにわ会の皆様には本当に温かく迎えていただいたことを思い出している。

姉妹都市提携50周年というのは両市にとって大変意義深く、この日を迎えられるのは、大阪市も合わせて一緒に担ってきた皆様方のご努力の結果だと思っている。こう

して長きにわたる関係を今後もしっかりと引き継ぎ、経済面、文化面でも交流が続いて行くよう、大阪市会としても努力していきたいと思っている。

結びに、大阪なにわ会の下平尾会長をはじめ、御出席の皆様の御健勝、御多幸を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。



剣道防具の贈呈

この後、記念品交換を行い、大阪市からは大阪市立田辺小学校1年生による大阪城の絵と、今年度から在伯なにわ会が日本文化の普及のために行っている「剣道教室」において、不足していると連絡があった剣道防具の贈呈を行った。

この後、大阪なにわ会が作られた1965年からの活動や現在のプロジェクトについて簡単な説明があり、昼食を取りながら意見交換を行った。その際、なにわ会より、次年度の事業の一つとして、日本、大阪に関する書籍の充実している図書室整備計画が発表され、中尾副市長からその場で書籍の収集に協力する旨の発言があった。

ジェトロサンパウロ事務所での現地事情ブリーフィング

午後2時45分頃、ジェトロサンパウロ事務所会議室にて現地事情のブリーフィングを行った。

まず、大久保所長から挨拶の後、担当者から説明を聴取した。

(ブラジル経済の特徴)

ブラジルは南米の大国であり、GDPでは世界第8位、人口は第5位である。日本から見るとラテンアメリカは非常に距離があり、ハードルが高く感じるものの、経済の実力は非常に高いといえる。ブラジルの特徴は内需牽引型の経済であり、GDPに占める個人消費の割合が高く、輸出や輸入の割合が低いことから、現在は世界経済において様々な問題が起きているものの、内需が揺るがない限りは大きな影響を受けることはない。

一方で、ブラジルでビジネスをする場合には税制、労働法、インフラ等のビジネス環境（いわゆるブラジル・コスト）が重要であり、特に輸入品に対しては複数の税がかかることから、流通価格は原価の1.6～1.7倍になることがある。



(日本企業の現状)

ブラジルに進出している日本企業は約500社である。メキシコには自動車メーカーを初め多数の企業が進出しており、約1,200社である。ブラジルのGDPはメキシコの1.4倍であることから、ブラジルにはまだ伸びしろがあると考えており、そこをジェットロサンパウロとしては企業に働きかけを行っているところである。

(経済動向)

ブラジルは一昨年までマイナス成長であったが、2019年の経済成長率は1%を下回る見込みであり、経済回復の遅れが顕著である。昨年は大統領選挙があったことから投資環境が不透明ということも経済回復が緩やかな要因の一つである。また、失業率は12.7%であることから経済回復は進んでいないといえる。

課題は財政赤字であり、政府債務のGDP比は2019年に80%に達する見込みであり2013年時点ではGDP比は51.5%であったことから大きく膨らんでいる。その要因は

年金や貧しい人向けの社会扶助などの社会保障費であり、これが財政負担となっている。

(政治動向)

2019年1月からボルソナロ政権が発足し、任期は4年であり始まったばかりであることから、その評価はまだ難しい。ボルソナロ大統領は軍人出身という特徴があり、政治的には中道右派・保守政権である。下院議員としての経験は豊富であるが政府の要職を務めた経験がないことに対して非常に不安視されていたが、小さな政府を目指す経済改革を行うなど、経済政策は順当に行われている。

(IT事情)

ブラジルは経済的に将来性が高く、ジェトロとしてはブラジルにある日系企業のスタートアップ（新たなビジネスモデルを開発する起業）などに対して支援していきたいと考えている。スマートフォンの保有割合やインターネットユーザー割合も日本とほぼ変わらず、スタートアップが提供するサービスが庶民に届きやすい環境が整っていると言える。

以上で説明を終え、主な質疑応答は以下のとおり

・税制が複雑になる原因は何かあるのか。

⇒連邦、州、市がそれぞれに税を決めることと、それらの行政機関がインセンティブを与えるなど税制改正を頻繁に行うことが原因である。国においても複雑な税制について改革を行っているところである。かつては国内産業を保護するために輸入代替政策が取られていたため輸入税が高く、一方で国内は地域格差があることから、地域ごとに税を決めてきたという歴史的な背景があり、昔から難しい課題である。

・現在も輸入代替政策が行われているのか。

⇒現在は市場を開放し、その刺激で国内産業を競争力のあるものにし、そのためにIOTを活用するなど方向転換している。

・輸入税も対策が取られるのか。

⇒ブラジルの輸入税はメルコスールという共同市場が敷かれており、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイで構成されていて共通の輸入税が設定されている。この輸入税を半分程度に下げる話し合いが行われている。

- ・ I T環境はそんなに悪くないと感じるが。
- ⇒ I T環境は最新とは言えないが、2億人の人口の中で社会課題が山積していることから、I Tで課題を解決する様々な方法が生まれてくる。例えばフィンテックという企業では、スマートフォンの中にバーチャルのクレジットカードが入っているビジネスが行われている。

以上で説明聴取と質疑応答を終えた。

在サンパウロ日本国総領事公邸訪問

午後7時過ぎ、在サンパウロ日本国総領事公邸に到着した。野口総領事から温かいもてなしを受け、簡単な挨拶と歓談の後、食事をしながら意見交換を行った。

【野口総領事との意見交換要旨】

明日は、ジャパンハウスで大阪市がプロモーションセミナーを行うが、来月には宮崎県知事がブラジルを訪れる予定であり、同じくジャパンハウスにおいて宮崎牛のプロモーションを行う。

ブラジルには日系人が多いが、サンパウロ大学という日本でいう東大に当たる大学の学生は、1割が日系人である。これだけ多くの日系人がいる背景には、日本人の勤勉性や実直さが評価されたのではないかと考えている。ヨーロッパの人がブラジルに移住した際にはまず教会を建てたが、日本人が移住した際にはまず学校を作った。日本人が教育熱心であるということも要因と言えるのではないか。

日本人がブラジルに来た頃は日本が貧しく、職を求めて海を渡ったと言われており、その頃は農家の次男、三男という人が多かったようである。ブラジル人はかつて野菜をあまり食べなかったが、日本人が野菜を栽培するようになり、現在ではブラジル人の食生活が健康的になったとも言われている。また、野球や柔道などのスポーツも日本人の移民によって普及したと言われている。

ブラジル人はインターネット好きで新しいもの好きである。グーグルの方に話を聞くと、グーグル検索が使用される言語の1位はもちろん英語だが、2位はポルトガル語であるとのこと。

意見交換は和やかに進み、最後に出席者で記念撮影を行い、公邸を後にした。

